

樽井藤吉 びらめ びらめ 社會運動家、政治家。嘉永二年四月十四日大和國宇智郡生れ、大正十一年十月二十五日歿（一八五〇—一九三二）。號丹芳。舊姓森本。井上頼國の神智舎に學び、佐田介石と交はる。明治八年横濱より、海老原穆等と雜誌「評論新聞」を創刊。その後、稻津南洋の助手となり、十一年には半歳程武昌時敏の戊寅義塾で漢文の講師をした。十五年島原で東洋社會黨を結成、また屢々上書、時弊を論じてく下獄二度。のち大陸に渡つて東洋學館の設立に關與、金玉均と交友はり、大阪事件に連坐。一十五年衆議院議員となり、東洋自由黨を組織した。翌年「大東合邦論」（森本藤吉名、明治）二十六年八月十八日奈良・自刊。影山正治譯「現代談・大東合邦論」昭和二十八年二月十日大東塾出版部。『刻大東合邦論』五十年十一月十日長陵書林「日本思想史資料叢刊」を出版。

晩年は大誅組の顯彰に努め、明治維新發祥地記念銅標建立會編「明治維新發祥記」(大正八年八月十五日奈良・樽井藤吉刊、井波倉藏實撰)を作つた。田中惣五郎著「東洋社會黨考」(昭和五年六月五日一元社)がある。

